

三方よし

藤枝市立藤枝中央小学校



コロナ禍だからこそ「三方よし」！

校長 新村和彦

新型コロナウイルス感染症拡大を懸念し、全国に緊急事態宣言が発出されて2年になろうとしています。いつ、本校にもコロナ陽性者が出てもおかしくないと思いつながら、静岡県内や藤枝市内の感染状況が落ち着き、ワクチン接種状況が進んだこと、そして、自然教室や修学旅行、運動会や音楽会（聴き合う会）等の大きな行事を無事に終えることができ、昨年のもは、少し安堵している自分がいました。

しかし、年が明けて、「オミクロン株」の爆発的な流行により、全国で感染が急拡大してしまいました。藤枝市内においても、77日間続いた感染者0の記録も途絶え、多い日には、65人も感染者が出てしまいました。

近隣の学校が閉鎖をしたと聞いたときには、「いよいよ、来るか」と覚悟をし、校内においては、「コロナ陽性者が出現した場合のシミュレーション」を作成して準備をしていましたが、実際に陽性者が出たと聞いたときには、動揺を隠せませんでした。その後は、みなさんの知ってのとおり、3学年が学年閉鎖をし、5学級が学級閉鎖を余儀なくされました。（2月4日現在）

陽性者が出てから、連日コロナ対応に追われましたが、対応をする中で心配したことは、「罹ってしまった子どもの症状」と「陽性者及び濃厚接触者の詮索及び誹謗中傷」ということでした。

学年・学級閉鎖をするということは、閉鎖した学年や学級の中に陽性者がいるということです。罹ってしまった子どもの症状は、もちろん心配でしたが、併せて、「〇〇ちゃん、コロナになったらしいよ。」「よかった。（うちの子が）濃厚接触者にならなくて。」など、不用意な発言があるのではないかと心配もありました。



これから、まだまだ、陽性者が出てくると思います。学年学級閉鎖で辛いのは、コロナに罹った陽性者と濃厚接触者、その家族などです。そして、コロナに罹ってしまったという事実や濃厚接触者になってしまったという事実ショックを受ける人もいるかもしれません。しかし、不用意な発言に気をつければ、発言によって、傷つく人はいないのです。実に単純なことだと思いませんか？

大人は守れても、子どもは思わず口にしてしまうことがあります。（悪意がなくてもです。）学校でも繰り返し、指導していますが、ぜひ、ご家庭でも、お子さんに不用意な発言をすることがないよう、お話しいただけると有り難いです。

・・・と、ここまで書いて、「待てよ・・・。」と思い、実際に、閉鎖明けの子どもたちの様子を、数人の学級担任に聞いてみました。すると、子どもたちの口から不用意な発言は、担任の耳には届いていない、という返事でした。

では、3年2組が学級閉鎖（1月31日給食後下校、2月1日学級閉鎖）になると聞いたときの子どもたちの反応はどうだったのか？



・・・ある5年生の学級では・・・

担任：「今日、3年2組は、給食を食べて帰ります。」「このことは、どういう意味か、わかりますね？」

子どもたち：「はい」

この話だけで、子どもたちはすべてを察し、質問などは一切なかったそうです。3年生の教室でも、子どもたちは、3年2組が学級閉鎖になることを素直に受け止めていたそうです。とても安心しました。さすが、藤枝中央小の子どもたちです。

幸い、罹ってしまった子どもたちの症状は、軽症で安心しました。どんな事情で休んでいても、登校してきた友達には、「久しぶりに会えて嬉しい。」そんな気持ちを子どもたちにはもってほしいものです。大切なのは、相手に対する思いやりです。相手を思いやる気持ちがあれば、詮索や誹謗中傷などあり得ないのです。

コロナ禍だからこそ、「三方よし」で、この難局を乗り越えていきたいと思つています。引き続き、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。